

1. マイホームはもう建たない
2. 5月16日十勝沖地震発生す
3. 増える交通事故と後手にまわるその対策
4. 緑のない日本の5月



1. 「マイホームはもう建たない」という、家づくりに苦心しているサラリーマンにとってショッキングな意見が登場している。その理由は、お定まりの、土地の高騰、建設労務者の不足による人件費の上昇、建設資料の値上りであり、これが解決には各種ローン、持家制度の拡大など、抜本的な資金面手当が必要であるという。実際、東京だけでなく大都市および周辺における事情の悪化は、まさにそのとおりであるが、解決策ははたして資金面だけであろうか。技術面で解決ないしは緩和に触れないのは淋しい。土地造成、住宅建設における施工法の改善、資材の改良など、容易でないではあろうが、研究を進めることによって、安価で良質なマイホームを提供したいものである。とかく夢の少ない若人に、サラリーマンに希望をもたせるよう、技術者の奮起が必要であろう。

[E]

2. 5月16日の十勝沖地震の震害調査団の一員として1週間ほどその復旧前の生々しい現状を調査する機会を得たが、改めて地震の恐ろしさを知らされた。しかし、災害発生から復旧への事後処理が的確に行なわれ、公共の機関が迅速にその機能をとりにどしたのは、われわれ土木技術者の不断努力と昼夜をわかつたぬ汗みどろの作業の結果であると思う。特に東北本線 尻内～野辺地間の修復工事は目ざましいものであった。地震発生の当日の夕方、三沢に着いた国鉄本社事故対策団の一行は直ちに夜中不通箇所全線にわたって踏査して早朝の3時にはすでに震害の全ぼうを掌握し、復旧作業工事が計画的に開始されたという。

今回の地震で土木構造物に対する被害で特に目立つことは盛土築堤部分の崩壊である。これは軟弱地盤上にあったということも原因の一つであるが、それとともに地震発生直前の集中豪雨が遠因になっていたようである。いずれにせよ、軟弱地盤上の土木構造物の耐震設計は今後の残された最大の技術課題の一つであろう。

[S]

3. アメリカと北ベトナムとの平和に関する交渉の場所がようやく本決まりとなり、パリにおいてすでに数回の接渉が行なわれた。このことから、ただちに平和が実現するかどうかは別として、その1ステップであることは間違いない。戦争の慢性化と慢延を恐れる人々の切なる願いによって平和実現に向っているのである。

それに引きかえ、わが国の交通戦争と呼ばれる毎日の交通事故は年を追ってますます増加しており、本年はその死傷者が80万人を越えるのではないかと推測されている。このことは、その死傷数の多さにおいてはもちろんのこと、その慢性化という点でも神経的にまひする点においても、ベトナム戦争以上ということができるし、特にその身近さはベトナムの比ではない。

政府は交通対策協議会を設けるなど多少関心を示しているように見えるが、いつそう具体的に、たとえば、交通事故原因の分析等においても警察まかせとせず、衆知を集め最も効果ある施設の充実をはかる姿勢が必要であり、また世論も聞けつてなくこの問題に最大の関心を寄せられることを期待したい。

[C]

4. “緑のない5月”を指摘した某国の使節の言葉を借りるまでもなく、都会から緑色が年々消えてゆく姿は非常に淋しい。独歩、露花の書伝える武蔵野の風情も年を追って蚕食され、今日ではその面影さえ見出すのに苦労する世相ではある。東工大のK教授の説によれば、日本において自然保護をなすことすらナンセンスであるとするが、水辺に生まれ、緑とともに生成してきた人類の足跡をかえりみると、灰色の都会をつくり上げることがはたして最上の策であるのか、そろそろ再考すべきときにきているのではなからうか。排気ガスなどの都市公害により立枯れてゆく並木などをみるにつけ、今日の科学技術力を集中して、都市公害に対しても強い樹木など新たに生み出すような努力も十分にされてよいのではなからうか、と考えるのは素人のはかない望みなのであろうか。

[E]